IAUD Newsletter Vol.11 2018.09 No.6

IAUD Newsletter vol.11 第 6 号(2018 年 9 月号)

1. 余暇の UDPJ「ダイアログ・イン・サイレンス」体験会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 「IAUD アウォード 2017」受賞紹介⑤・・ 5
3. 「IAUD 国際デザイン賞 2018」募集期間延長のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4. 「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」論文募集中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
5. 「第 2 回 IAUD 住宅学生コンペ」募集中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
6. IAUD 9 月の予定・・ 11

音の無い世界でおしゃべりを楽しむ

活動報告:余暇の UDPJ 「ダイアログ・イン・サイレンス」体験会

「テレビ CM にも字幕を」をテーマに活動している余暇の UD プロジェクトは、8 月 16 日(木)に LUMINE 0 (東京・新宿)で、音のない世界で言葉の壁を超えた対話を楽しむ体験型エンターテイメント「ダイアログ・イン・サイレンス」に参加しました。

当日は同 PJ メンバー2 名が参加し、静寂の中で集中力、観察力、表現力を高め、音や声を出さずにコミュニケーションをとる方法を発見していく過程を体験し、大変有意義な場となりました。

今号の Newsletter では当日の様子を同 PJ の土屋亮介メンバーが報告します。

「ダイアログ・イン・サイレンス」手のダンスの様子

世界で 100 万人以上が体験

「ダイアログ・イン・サイレンス」は一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティが運営する体験型エンターテイメントで、完全に音から遮断された世界で、言葉の壁を超えた対話を楽しむプログラムです。

言葉は使わずに自分の思いを伝えたり、相手の言いたいことを理解していくことで、表情やボディーランゲージの重要性、ひいては手話の重要性などに気づくことができます。

1998 年にドイツで初めて開催されて以降、フランス、イスラエル、メキシコ、トルコ、中国でも開催され、これまで世界で 100 万人以上が体験しました。

日本では 2017 年 8 月に初めて開催され、20 日間で約 3,500 人が体験したそうです。

昨年の日本初開催にあたり、当 PJ の松森果林主査が企画監修したため、今回のメンバー参加につながりました。

なお、「ダイアログ・イン・サイレンス」と同様に、光を遮断し真っ暗闇の中で対話を楽しむ「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」もあります。

どちらもドイツの哲学博士アンドレアス・ハイネッケ氏の発案であり、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」は 1988 年に開催されて以降世界 41 ヵ国、約 800 万人が体験しています。日本では、

1999 年 11 月の初開催以降、これまで 20 万人以上が体験しています
※「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の詳細はこちらをご覧ください。
http://www.dialoginthedark.com/

言葉が使えない世界でコミュニケーション

「ダイアログ・イン・サイレンス」は 12 人の参加者が 1 グループとなり、音を完全に遮断するノイズキャンセリングのヘッドセットを装着し、音声や言葉、手話も使わないルールのもとで 90 分間、聴覚障害者である案内役に導かれて、静寂な部屋を巡りながら対話を楽しみます。

各部屋では、それぞれテーマに沿って目や手、顔の表情、身振りなどのボディーランゲージを使って対話をしていきます。

以下に実際に体験した 90 分間の内容を記載します。（体験中は写真撮影禁止のため、この項は広報からいただいた写真を貼付します）

①ようこそ静寂の世界へ

12 名のグループで静寂の世界へ案内された後、まずはヘッドセットを装着し完全に外の音から遮断されます。

体験中は、音声での会話はもちろん手話も禁止となります。できるのは身振りや手振り、顔の表情など完全なボディーランゲージで、テーマごとに分かれた部屋で、いくつかのプログラムを楽しみながら進んでいきます。

この 90 分間を案内するのは、「言葉に頼らないエキスパート」である聴覚障害者で、彼らのことを「アテンド」と表現していました。

アテンドが各部屋の紹介や課題を参加者に説明してくれます。もちろんこの説明も含めすべてが体の動きだけで行われます。

つまり全員が対等な立場となり、言葉を使わないおしゃべりを楽しむことができるのです。

②静寂の世界に少しずつ慣れていく

最初のいくつかの部屋は、静寂の世界に慣れる準備段階です。

手を使って影絵遊びを楽しんだり、様々な顔の表情を作ったりするプログラムがあります。

はじめはサイレンスと関係ないように感じましたが、この後で必要になってくるボディーランゲージの準備運動という意味で非常に重要なステップであることが分かりました。

特に、日本人は大げさなジェスチャーや顔で表現することは苦手なので、恥ずかしがらずに表情を作る、という訓練を楽しみながら自然とこなすことにもなります。

③言葉を発さずにコミュニケーション手段を増やす

クイズ形式で手の形から何を表現しているのか推理したり、2 つのチームに分かれて、手の形から何を表現しているのかをクイズ形式で競いあうゲームもありました。

身振り手振りで仲間同士答えを合わせることになるのですが、これが難しい。

しかし、このころになると、アテンドの動きや表

サインで遊ぶ

情から、課題説明もなんとなく理解できるようになります。
　また、手の形が表すものを想像することで、手話の原型について理解できたような気がします。
　さらに、ゲームを通してチームワークや仲間意識が生まれてくる感じがしました。

④「伝えるって難しい！」「伝わるって嬉しい！」

　部屋を進んでいくと、さらに難易度は上がっていきます。
　「形の部屋」では 2 対 2 となり、「顔の表情やボディーランゲージで情報を伝える側」と「その情報を受け取って再現する側」とに分かれるのです。
　言葉を発することなく、正確に情報を伝える難しさを感じました。
　しかし、いざやってみると、意外と伝わるという面白さや嬉しさもありました。

形の部屋

⑤よりわかりやすく感じた手話

　一通りのプログラムを終えると、簡単ないくつかの手話を教えてもらえます。ここでやっと「手話」という言葉をもらうことができるのです。
　ただそれだけのことですが、私自身が今まで手話を教えてもらった時とは大きな違いがあります。
　まず、手話の形が何を表しているのかすんなり頭に入ってきます。
　情報を得る手段が、聴覚を遮断されたことによって視覚情報が優先されてきたのでしょうか。分からない形も何の形か想像しよう、という気持ちになっています。

手話の部屋

　もう一つの違いは、顔の表情をつけて手話で伝えようとしていることです。手話は手の形や動きだけではなく、顔の表情も大切だということが改めて分かりました。
　これから手話を覚えようとする人にはぜひ今回の体験をしてほしいと思いました。

⑥新たなコミュニケーションを楽しむ

　最後の「対話の部屋」ではヘッドセットをはずし、アテンドから音と声を返してもらいます。
　参加者全員で車座になり、アテンドと参加者間で今日体験した感想や思いを自由に対話するのです。
　声を出して会話もできるようになるのですが、我々のグループでは参加者の中にも聴覚障害

対話の部屋

者がいたため、筆談をまじえてコミュニケーションを取る努力が求められました。
　しかし、今まで音のない世界でのコミュニケーションをこなしてきたので、自然に手振りや筆談に入れた気がします。

日常のコミュニケーションに多くの発見

今回アテンドしてくれたやっくん
（写真中央）

　全て通して90分の体験でしたが、非常に多くの気づきを得られました。
　今まで聞こえない人との交流は多く経験してきましたが、自分が聞こえない体験というのは初めてです。その中でコミュニケーションを取る難しさが実感できました。
　また、コミュニケーションにおける表情や目の動き、身振り手振りといった動作の重要性も理解できました。身振り手振りは単なる会話のおまけではなく、重要な言語ということが実感できました。
　今回、同じグループで体験した参加者 12 名とは当日初めて会う人たちで、スタートするまで挨拶すらしていなかったのですが、音の無い世界を協力して進んで行くという体験を通じ、あっという間に仲間意識が芽生えた気がしました。帰る時には友達のような感じとなっており、この点も少し不思議な感覚でした。
　終了後には、真っ白な本を一冊頂き自由に書き込むことができます。時が満ちたころ手元に届けられる、という終わった後も楽しめる仕掛けがあります。その時、どんな対話ができるのかも楽しみです。
　共に参加した当 PJ の千葉桜洋メンバーは聴覚障害がありますが、今回の体験を非常に楽しんでいました。以下、千葉桜さんの感想を引用します。
　知らない他人同士が目を合わせ、手に触れ、全身を使って必死に伝えようとしているうちに、だんだん互いに近親感が湧き上がってくる不思議な感覚でした。
　参加者は、アテンドの言葉に頼らないコミュニケーション能力の高さに驚かされ、またそこから醸し出される優しさに惹かれていました。
　最後にヘッドセットを外す時、聞こえる参加者は「おぉ！」と、天井や空間を眺めて呆然としている姿が印象的でした。きっと、今までずっといた無音の世界から突然音の世界に戻った感覚に、改めて驚かされていたのでしょう。
　アテンドと参加者との対話の時間では、ある参加者がつい声で話してしまい、アテンドに伝わってない場面になったら、別の参加者が即座に手助けし、伝達の補い合いをする姿勢が自然に生み出されていました。
　そこには手話の勉強云々以前に、相手に伝わっているかな、と敏感になったり、例え伝わっていなくとも諦めずにコミュニケーション取ろうとする気持ちやそのための工夫を考えて編み出していく、といった、聴覚障害有無に関わらず、ヒトとしての対話そのものの原点を見出される思いでした。

おもてなしの心を育み、ホスピタリティを高める

「ダイアログ・イン・サイレンス」は 7 月 29 日（日）から 8 月 26 日（日）までの期間限定開催でしたが、29 日間で約 6,000 人が参加されたそうです。

昨年と比べると、子どもや外国人、聴覚障害のある当事者が多く参加され、また企業研修として貸切枠も大変人気があったそうです。

「この体験を通してどんな国の人とでも笑顔で対応できる」という感想もあり、2 年後に「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」を迎えるにあたり、おもてなしの心やホスピタリティを高める体験につながると思いました。

今年は終わってしまいましたが、来年もまた継続予定とのこと。楽しみです。

※「ダイアログ・イン・サイレンス」の詳細はこちらをご覧ください。

https://www.dialogue-in-silence.jp/

更なる UD 社会の実現に向けて

「IAUD アウォード 2017」受賞紹介⑤：金賞受賞の取り組み

「IAUD アウォード 2017」受賞紹介の 5 回目は金賞 1 件の取り組みを紹介します。

地域計画部門金賞を受賞した公益財団法人こうべ市民福祉振興協会の「しあわせの村ナビゲーションアプリ『だれでもナビ』の開発」について、IAUD アウォード 2017 審査委員長のロジャー・コールマン氏（英国王立芸術大学院名誉教授）は、「都市環境へのアクセスを改善し、楽しませることのできる実験的で高度に包括的なプロジェクト。普遍的なアクセシビリティツールに発展する大きな可能性を秘めている」と評価しています。

「IAUD アウォード 2017 発表会／表彰式＆プレゼンテーション in ミュンヘン」会場にて

今号の Newsletter では、「しあわせの村ナビゲーションアプリ『だれでもナビ』の開発」の取り組みを、こうべ市民福祉振興協会の佃孝司氏に報告していただきます。

※「IAUD アウォード 2017」受賞紹介①②③④はこちらをご覧ください。

IAUD Newsletter vol.11 第 1 号（2018 年 4 月号） https://www.iaud.net/newsletter/9754/
IAUD Newsletter vol.11 第 2 号（2018 年 5 月号） https://www.iaud.net/newsletter/9803/
IAUD Newsletter vol.11 第 3 号（2018 年 6 月号） https://www.iaud.net/newsletter/9937/
IAUD Newsletter vol.11 第 4 号（2018 年 7 月号） https://www.iaud.net/newsletter/10080/

※「IAUD アウォード 2017」受賞結果はこちらをご覧ください。

https://www.iaud.net/award/9631/

※「IAUD アウォード 2017」 審査講評はこちらをご覧ください。

https://www.iaud.net/award/9634/

すべての人に最適な道案内をする UD アプリ

地域計画部門金賞：「しあわせの村ナビゲーションアプリ『だれでもナビ』の開発」 公益財団法人こうべ市民福祉振興協会

しあわせの村 UD アプリ「だれでもナビ」

UD アプリ「だれでもナビ」

神戸市北区にある「しあわせの村」は、子どもから大人をはじめ、障害者、高齢者、誰もが楽しめる総合福祉ゾーンです。

約 205 ヘクタールの自然豊かな敷地内には、高齢者や障害者の自立を援助する福祉施設、運動広場、芝生広場、キャンプ場など多種類の屋外スポーツ施設やレクリエーション施設、宿泊施設、温泉施設などがあり、市民の健康とふれあいの場を提供しています。また、先進的な UD 事業を実践する場でもあります。

この度、開発しました「だれでもナビ」は、広大な「しあわせの村」の歩行者向けナビゲーションアプリです。スマートフォンで村内の目的地を入力すれば、村内地図にルートが表示され、村内を道案内してくれます。

従来の地図ではあまりない「段差・階段」や「点字ブロック」の情報が登録されており、「最短ルート」の他に「段差・階段のないルート」「点字ブロック（歩行誘導マット・手すり）ルート」の 3 つのルートから、自分の状態に合わせて選択できます。

また、音声読み上げや多言語にも対応しており、地図にはカラーユニヴァーサルデザインの配色も取り入れています。

「だれでもナビ」は誰もが自分に合った形で村内のナビゲーションに利用できる UD アプリとして、2017 年 3 月にバージョン 1.0 の提供を開始しました。

「だれでもナビ」3 種類のルート選択

村内のルートを検索する際は、「最短ルート」「段差・階段のないルート」「点字ブロック（歩行誘導ソフトマット・手すり）ルート」の 3 種類から最適なルートを選択して検索できます。

GPS 機能を活用し、位置情報として現在地から目的地までの経路を赤線で表示します。また、目的地までの所要時間と距離も表示されます。

①最短ルート

②段差・階段のないルート

③点字ブロック（歩行誘導ソフトマット・手すり）ルート

どなたにも使いやすい便利な機能

多言語対応

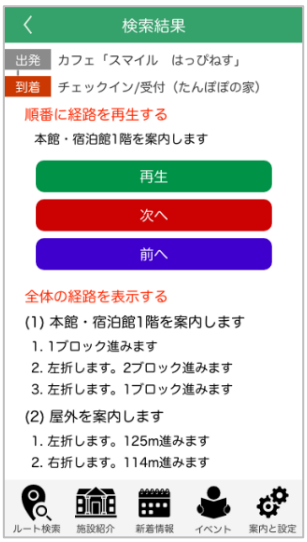
日本語の他に英語、中国語、韓国語に対応しています。

音声読み上げ機能

スマートフォンに搭載された音声読み上げ機能に対応しています。

→

テキストによる案内

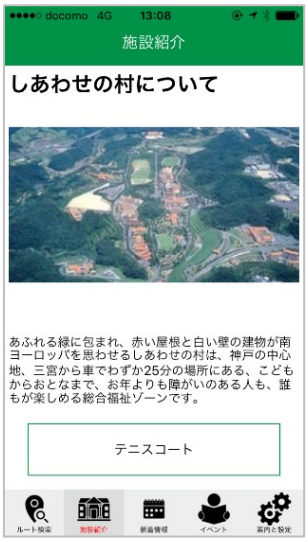


点字ブロックの区画ごとの文字案内に対応しています。

屋内地図

出発地から目的地まで進行方向に矢印が出ます。

施設案内が充実



宿泊施設、レストラン、会議室など村内の施設やサービスを案内します。

イベント案内

しあわせの村 HP にリンクしているためイベント情報等の閲覧が可能です。

ユーザーの意見を反映させて開発

誰もが使うことができるアプリを開発するために、UD 情報提供コンテンツシステム開発検討部会（視覚、聴覚、肢体の障害者、高齢者、学識経験者、学生などで構成）を立ち上げ、様々なご意見をアプリに反映させました。

また、村内の「段差・階段」や「点字ブロック」の情報は、車椅子使用者が村内を実測してデータ化しています。

誰もが使うことができるアプリとして、「だれでもナビ」と名付けました。

ユーザーとの実証実験（写真左）と実地実験の様子

利用者からも「役立つ」「使いやすい」と好評

男子高校生：初めて来た人にはすごく重宝するし、1 日遊ぶ中ですごく役立つものだと思います。また、施設紹介で施設の名前が全て書かれていたことも分かりやすくて良かったです。
30 代女性：レストランやトイレなど行きたいところにピンポイントで建物の中まで案内してもらえ、とても助かっています。
50 代女性：ルート検索で出発地や目的地を選んだ時に、選択した店舗などの情報が見られることがとても親切だと思いました。今後、ルート検索で履歴を見ることができればより良くなると思います。
30 代男性、作業部会メンバー：「だれでもナビ」の機能の一つで、こうべ・だれでもトイレ（多機能・多目的トイレ）をルート検索の目的地に設定して近付けば音を出して知らせてくれます。この機能は目の見えない私にとってとてもありがたいです。今後、このアプリを通して障害者と健常者など様々な人が交流できるようになってほしいと思っています。

「だれでもナビ」他施設への転用も

「だれでもナビ」は、オープンデータや編集可能な地図データを活用しているため、関係施設への転用が可能となっており、誰もが快適に移動できるまちづくりや施設づくりにも役立てることができます。
これは、UD の考え方がさらに広がっていくことが実験の場である総合福祉ゾーン「しあわせの村」の理念の実現に向けた取り組みの一つでもあります。
※総合福祉ゾーン「しあわせの村」の詳細はこちらをご覧ください。
http://www.shiawasenomura.org/

---

9 月 14 日（金）まで募集期間延期！
「IAUD 国際デザイン賞 2018」応募受付中

UD の普及と支援のために 2010 年に創設された「IAUD アウォード」は、この度「IAUD 国際デザイン賞」と名称を改め、新たに審査基準も設定した「IAUD 国際デザイン賞 2018」の第 1 次審査応募締め切り日を **9 月 14 日（金）**まで延長しました。
一人でも多くの人が快適で暮らしやすい」UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人に「IAUD 国際デザイン賞」を、最も優れているものには「IAUD 国際デザイン賞大賞」を贈呈し表彰します。

「IAUD アウォード 2017」表彰式の様子
（ドイツ・ミュンヘン）

今回の表彰式及びプレゼンテーションは、2019 年 3 月にタイ・バンコクで開催される「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019」内で実施します。皆様の応募をお待ちしております。
※「IAUD 国際デザイン賞 2018」の詳細はこちらをご覧ください。
https://www.iaud.net/award/9871/

締め切りは 11 月 20 日（火）まで！
「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」論文募集中

「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」
開会式の様子（名古屋国際会議場）

IAUD は 2019 年 3 月に「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」を開催します。

国際的な認知をより進めるため、今回初めて海外—ASEAN 諸国でも経済的熟度が高く、多くの日本企業が進出しているタイ王国の首都バンコクで開催します。

会議のテーマは「ユニヴァーサルデザインによる持続可能な発展」。進展した研究や実践の成果、そして未来への展望を日本から世界に発信すると共に、さらなる情報の共有化と人的交流を行うことで、より質の高い UD 社会の実現をめざします。

つきましては、日頃の研究成果や商品化、さまざまな実践における工夫などを国際会議で発表していただきたく、論文募集を開始しました。

産業界、学界、行政職、デザイン関係者、コンサルタントや市民活動参加者、学生など様々な分野からのご応募を期待しています。

本論文の応募締め切りは **2018 年 11 月 20 日（火）**です。どうぞ奮ってご応募ください。

※「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」論文募集の詳細はこちらをご覧ください。
https://www.iaud.net/conference/ud2018/10266/

学生らしい斬新な住まいと暮らし方を提案
第 2 回 IAUD 住宅コンペ「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」募集中

第 1 回 IAUD 住宅学生コンペ表彰式の様子
（東京・秋葉原）

誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、「UD プラス」の考えを推進している住空間プロジェクトは、学生の皆さんにフレッシュで斬新な住まいと暮らし方の提案を募る第 2 回 IAUD 住宅学生コンペ「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」を今年も開催します。

UD プラスの趣旨に沿っていることを前提に審査し、グランプリには賞金 5 万円が授与されます。

応募締め切りは **10 月 1 日（月）**です。大学、専門学校の学生対象で、個人、グループは問いません。皆様の応募をお待ちしております。

※第 2 回 IAUD 住宅学生コンペの詳細はこちらをご覧ください。
https://www.iaud.net/activity/10134/

※第 1 回 IAUD 住宅学生コンペ各受賞作品の紹介及び審査委員の講評はこちらをご覧ください。https://www.iaud.net/activity/9371/

※第 1 回 IAUD 住宅学生コンペ開催報告を掲載した Newsletter vol.10 第 9 号（2017 年 12 月号）はこちらをご覧ください。
https://www.iaud.net/newsletter/9424/
※第 1 回 IAUD 住宅学生コンペ表彰式開催報告を掲載した Newsletter vol.11 第 1 号（2018 年 4 月号）はこちらをご覧ください。
https://www.iaud.net/newsletter/9754/

2018 年 9 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6 「第 13 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」 @芝浦工業大学	7	8	9
10	11	12	13	14 13:30～ 余暇の UDPJ @IAID サロン 14:00～ 手話用語 SWG @筑波技術大学 **「IAUD 国際デザイン賞 2018」第 1 次審査募集締切**	15	16
17 **敬老の日**	18	19	20	21	22	23
24 **振替休日**	25	26	27 13:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン 13:30～ 標準化研究 WG @三菱電機	28	29	30

次号は 10 月上旬発行予定
特集：「第 13 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」開催報告 ほか

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846　FAX：03-5541-5847　e-mail：info@iaud.net